

戦争させない！ 平和な未来を！

憲法と子育て・教育を考えるつどい

2015年12月13日（日）、東京世田谷区のと光小学校で「憲法と子育て・教育を考えるつどい」が開かれ、240名が参加しました。教育子育て九条の会は第8回全国交流集会としてとりくみました。

主催：教育子育て九条の会 / 「憲法と子育て・教育を考えるつどい」東京実行委員会

全体会

司会

山田純江さん

(和光世田谷九条の会、母親、
JAL 不当解雇撤回裁判原告)

小笠原彩子さん

(弁護士、自由法曹団)



オープニング

和光小学校の子どもたちの民舞

中野七頭舞 (4年生)

大森みかぐら (5年生)

紹介 (山田純江さん、山下淳一郎さん)

和光小学校では、30年以上前から地元の保存会や青年団の人たちと交流しながら、民舞を踊る楽しさ、自分自身を表現する喜びなどを子どもたちに教え、伝承しています。1年生は「アイヌのおどり」、2年生は「今別荒馬おどり」、3年生は「寺崎はねこおどり」、6年生は「和光エイサー」を踊ります。

日本の民舞教育の第一人者として数々の優れた実践を残した平野正美先生が亡くなる前、学校の「通信」の

最後となる編集後記で、次のようにおっしゃっています。

「なぜ私たちは民舞をやるのか。子どもたちと民舞を踊りたいのか。一言でいえば、その踊りを通して豊かな人と人とのつながりが生まれることの大切さを子どもたちに実感してもらいたいという、教師としての願い、希望なのだろう。…以下略」

中野七頭舞は、岩手県の尾本というところで、田畑を開拓してその喜びを表す踊りです

大森みかぐらは、岩手県衣川町の大森小学校の子どもたちが約30年前に修学旅行に来た時に、和光小学校に寄ってくださって6年生に伝えてくれた踊りで、これを毎年6年生が5年生に踊りついで伝えていく形で現在も残っています。

あいさつ

危機的な1年、でも大きな希望も見えた年 平和憲法を守り抜きましょう

集会実行委員長

村田智子さん（弁護士、東京教育連絡会代表委員）

皆様こんにちは。

今日は12月の日曜日、お忙しい中、こんなにたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。

また、会場を貸してくださった和光小学校の先生方、本当にありがとうございます。

子どもたちが踊ってくださった民俗舞踊、本当に素晴らしかったですね。たくさん力をいただきました。

あらためて4年生、5年生のみなさん、ありがとうございました。

さて、残すところ2015年もあと18日。速いものですが、この2015年という年は、日本にとってどんな1年だったのでしょうか。

それは残念ながら、日本が「戦争する国」にむかって突きすすんでしまった年だったと思います。その典型が安保法案の成立です。

それだけでなく、基本的人権、特に表現の自由がいたるところで侵害され始めた1年だったと思います。例えば、国や自治体、議員さんなど上からの圧力で侵害される場合もあれば、インターネットなどでいろいろ言われて自粛せざるを得ないということもあったと思います。

例えば教育現場では、高校の授業で時事問題をとりあげた場合、どんなにそれがすばらしい授業であったとしてもあとで議会で問題にされるなどということが各地で起きています。また高校の部活動で、生徒が安保法案に関してアンケート調査をした、その内容が不適切であったとして校長が謝罪するという事例も起きています。アンケートの「安保法案」という言葉のすぐあとに括弧書きで（戦争法案）と書かれている、その表現がいけなかったということでした。

平和主義、基本的人権の尊重は、日本国憲法が定める3大原則のうちのふたつです。このふたつが脅かされて

しまった、そういう意味で大変危機的な1年でした。

しかし他方で、2015年は大きな希望が見えた1年でもあったと思います。

安保法案についてはSEALDsなどたくさんの若い人たち、若いお母さんたちが立ちあがりました。連日の抗議行動、その大きなうねりは今も続いています。

また、今年は4年に1度の、中学校の社会科教科書の採択の年でしたが、憲法改悪をめざす『育鵬社』版教科書は思ったように採択率を伸ばすことができず、しかも東京23区は採択ゼロという大きな結果に終わりました。これは私たちの努力の成果だと思います。

2016年はどんなことが待っているか不安もありますが、ぜひ一緒に平和憲法を守り抜きましょう。

そのためにも学習をしていきましょう。

今日、午前の分科会ではたくさんの学びをさせていただきました。午後にはシンポジウムやリレートークなど充実したプログラムがございます。どうぞ最後までご参加いただけますようお願いいたします。

いのちと平和を守ることを 教育づくりの柱に

北山ひと美さん（和光小学校校長）

皆様ようこそ和光小学校へいらっしゃいました。

私は和光小学校と、この隣にあります和光幼稚園の校長をしております北山と申します。

和光小学校を教育子育て九条の会全国集会の会場にというお話をいただき、大変うれしく思っております。

先ほどのお話にもありましたが、今年ほど、日本国憲法のもとで子育て・教育を考えることが求められている年はないのだと思います。その意味できょうここで憲法、子育て・教育を考えるつどいが開かれることの意義は大変大きいと思います。

和光小学校は今年82周年になりますが、その創立の時から、子どもを主人公にした学校づくりをすすめ、いのち、平和を守ることを教育づくりの柱のひとつにしてきました。

6年生の総合学習「沖縄」では、豊かな沖縄の文化や

歴史、自然を学び体験しながら、沖縄戦や在日米軍基地の問題などを学習しています。今年是全国的にも、辺野古の新基地建設問題に関心が集まっていますが、戦後、銃剣とブルドーザーで土地を奪われ、沖縄本島の5分の1近くを米軍基地に占められている沖縄は70年にわたってこの問題に苦しめられています。

今の沖縄がかかえる問題を子どもたちとともに考えると、当然、辺野古の問題、新基地建設に反対する人たちのことを考えていくということになります。30年近く、10月末に沖縄学習旅行を実施していますが、ここ数年は辺野古にも行って学んでいます。

事前学習でつくった旗をフェンスに結びつけるという活動もありました。昨年その旗が右翼活動をしている人の手に渡って、東京都の私学部から直接指導を受けるということがありました。脅しのような言葉やメールがくることはあるのですが、直接東京都から指導がきたのは初めてでびっくりしました。

旗に書かれているのは「辺野古の自然を守れ、米軍基地はアメリカへ」です。子どもたちが学んでこう書こうと考えた言葉なのですが、指導の内容は「人様の土地に入った、不法侵入だ」というのです。キャンプシュワブに隣接していて、フェンスはキャンプシュワブ側についているわけですから、旗をとりつけようとすれば足を踏み入れることになる。しかしもともと誰の土地かといえは「何を言ってるんだ」という思いですが、指導の中に「私学だから独自の教育方針を持っているのはわかるが、偏った考えを教えるはいけない」という言葉も入っていました。「私たちは偏った考えを教えているつもりはありません。子どもたちには歴史の事実を伝えて、沖縄の現実を知り考えることを大事にしています」と応えて電話を切りました。それ以来、電話はかかってくることはありません。

昨日の産経新聞の一面にこんな記事が載っています。

「東京の旅行会社が、辺野古移設への抗議活動に参加する旅行者の募集を行っていた」と。この旅行会社は私たちの沖縄学習旅行を30年近く支えてきてくださっている富士国際旅行社さんです。

私たち市民があたりまえの声をあげることを、このような形で妨害するのは本当に許されないと考えます。

この話を聞いて、12年前でしょうか、七生養護学校で

起こった事件を思い出しました。自分たちに都合の悪いことは力で押えこもうとする。これこそ民主主義の破壊だと思っています。断固抗議したいと思っています。

6年生の子どもたちは、沖縄戦の証言者の方たちから直接話を聞いて、当時、いのちがどのように扱われたのかを学んできます。そこから戦争というものの実相を知っていきます。

最後に、8年前に卒業したひとりの卒業生が書いた卒業文集の言葉を紹介させていただきます。

6年間学んだことを振り返って書いた最後に、

これからもこの経験を忘れずに、自分とまわりのいのちを大切に育てていきたいのです。私が今強くこう思うことができたのは、1年生からずっと6年間、少しずついのちの大切さを教えられてきたからだだと思います。私にとって、戦争のことや沖縄のことを学んだ時、それだけがすごく衝撃だったのではありませんでした。それまでに学んだアイヌのことや、多摩川のことで心にたまっていた疑問とか怒りとかが、戦争を学んだ時に全部つなごうような気がしました。私が学んだ戦争は、時間としては過去の出来事だけど、実は今も続いています。息を沈めてチャンスをうかがっている化け物のようです。この化け物を未来に復活させてはいけません。沖縄はそう教えてくれました。ぬちどう宝で、世界が平和になるように。

子どもたちのために私たちができることは何かを考えて、行動してかなければならないと思います。

今日はどうもありがとうございました。